

東証31年ぶり高値

終値3万670円 経済政策に期待感

14日の日経平均株価の終値は前日より222円73銭高い3万670円10銭で、1990年8月以来、約31年ぶりの高値となった。自民党総裁選の立候補予定者の経済政策への期待感や新

型コロナウイルスのワクチン接種の進展などを好感し、買いの動きが広がった。日本株が今春以降、欧米株より伸び悩んでいたことも買いの材料になった。

菅首相、総裁選不出馬表明

▲経済面⇨海外から買い

上げ幅は一時300円を超え、3万800円近くまで上がった。菅義偉首相が総裁選への立候補を見送ると3日に表明して以来、直近8営業日で2100円値上がりした。

野村証券の沢田麻希氏は「急上昇の反動が出てもおおかしくないが、相場が強い時は過熱感を伴いながらも上昇する。3万円を割り込みながら年末にかけて3万2千円までいく」とみる。一方、ニッセイ基礎研究所の斎藤太郎氏は「医療体制の拡充など、感染者が増え

日経平均株価の推移と主な出来事



日経平均は2月にバブル経済崩壊後以来の3万円台に乗せたが、その後は伸び悩んだ。コロナ感染者数の増加や、菅政権の支持率低下による政治の不安定化な

どを投資家が警戒し、8月中旬には年初来最安値の2万7013円25銭まで下落した。米国株が今春以降、高値の更新を続けたのと対照的な動きになっていた。

しかし、8月末から感染拡大が一服し始めたのに加え、菅氏の立候補見送り表明で停滞感が解消に向かうとの見方から株価は上昇した。2回目のワクチン接種を終えた人の割合が5割を超えて先行する欧米に迫り、13日には感染者数が7週間ぶりに5千人を下回ったことも後押ししている。

東証1部全体の値動きを示す東証株価指数(TOP-IX)の14日の終値は、前日より21・16%高い2111

8・87。全33業種別にみると29業種が上昇した。上昇率トップは保険業の3・67%。海運業や輸送用機器といった業種も高い伸びを示した。